

## 平成 26 年度第 8 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 26 年 11 月 20 日 (木) 18:35 ~ 19:35

【場 所】 厚田保健センター 1 階 多目的ホール

【出席者】 9 名 (15 人中)

役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
会長	佐藤 勝彦	○	委員	小山 玲子	○	委員	前田 和也	○
副会長	渡邊 教円	○	委員	今 光江		委員	美馬 康子	
委員	大黒 利勝	○	委員	柴田 志寿子		委員	盛重 栄司	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴田 肇		委員	築田 敏彦	○
委員	河野 すみれ	○	委員	高橋 敬二	○	委員	吉田 美香	

※正副会長を除き、あいうえお順

支 所 ~ 尾山支所長・熊谷課長

事務局 ~ 高田課長・相原主幹・渡部主任・永澤主任

(地域振興課)

厚田こだわり隊 ~ 河合徳秋隊長                      JA北いしかり ~ 販売購買課 田中課長補佐

地域おこし協力隊 ~ 小島隊員・沼倉隊員

【傍聴者】 1 名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 情報交流 (リラックス タイム)  
・地域の「ちょっといい話題」交流

4. 報告事項

・地域創生道の駅モデル企画提案書の提出について

5. 協議事項

・地域振興事業の提案について (資料①~⑥)

①「厚田区地域協議会活動報告冊子作成事業」

②「あつた水彩画展芸術文化振興事業」

③「地域で取り組む情報発信事業」、④「厚田の小さな情報誌増刷事業」

⑤「農産物直売所サポート事業」、⑥「厚田ご当地グルメ開発プロジェクト事業」

6. その他

・次回会議の日程について

7. 閉会

## 1. 開会

高田課長： 皆様お晩でございます。地域協議会に入る前に、柴田志寿子委員、柴田肇委員、今委員、盛重委員、美馬委員の5名から欠席の連絡を受けており、河野委員と前田委員については若干遅れるという事で連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成26年度第8回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

## 2. 会長あいさつ

佐藤会長： 皆様お晩でございます。話しという事ですけども、今週の17日月曜日と18日火曜日の二日間で「ほっかいどう元気なふるさとづくり交流大会」というのに出席して参りました。主催は北海道の総合政策部地域づくり支援局地域政策課集落対策・地域活力グループという事で非常に長いのですが、ここが主催した訳で地域と言いますか、北海道の特に人口減少が著しい所をどう活性化していくかという事がテーマで、それは交流大会という事ですので、何処と交流するかと言いますとこれは都市と交流するという事なんです。ですから、故郷や田舎の宝を発見して都市と交流しながら、地域を或いは地域と言いますか、段々と限界集落が近くなるような高齢化が進んでいるような所と、もっと元気にして住み良い集落を作りましょうというのが目的らしいです。そこで今日、その話しをするのですが、こういうパンフレットがありまして「田舎で本格的な起業を始めてみませんか」という事です。田舎で起業という事ですが、結構長く二日間に亘ってそれが行なわれたのですが、目的はただ一つで、やはり田舎や故郷を元気にする為には、働く場所を作るという事で、すなわち雇用を生み出せるかどうかというのが勝負どころだという事で、その雇用を生み出す為の企業を誘致するのでは無く、企業を誘致するというのはバブルの時代の話であって、今はもうそういう事は出来ず企業自体が縮小してきており、そういうところがわざわざ田舎まで物流にお金をかけてとれない訳で、田舎の起業は何かと言いますとやっぱり農業だという話しなんです。ですから休耕地と呼ばれる所が日本全国に沢山ありますので、そういう所で農業というビジネスを成功させようというのがこの目的なんです。それで成功を取めた人の基調講演があって、全道から集まっている人達でワールドカフェという事で、私達が前にやりましたように、テーブルに別れてグループディスカッションをやり、そこからアイデアが生まれて来るという事もやりながら、あとは地域の色々な課題・問題をやりながら四つの分科会に別けて話し合いをしました。今年が初めてという事で、北海道が全道を対象とした「ふるさと交流」という事で、これが第一回目で毎年これを続けていくという事でした。そこで毎年続けるという事で11月17日に設定した訳ですが、どうして皆さんが出てきやすい土・日にしなかったのかと聞いてみたところ、11月17日は「良い田舎の日」だという事で語呂合わせをしたという事で、さすが行政だなと思いました。11月17日は「良い田舎の日」だからこそ田舎の魅力を発見し、それをビジネスに繋げてその村を或いは、その地域を豊かにしていこうという事を目的にしているそうです。そういう話しを聞きまして、どこも色々大変だなという事で我が地域だけでは無く、今や全道各地でこういう地域協議会のような組織を立ち上げて、何とか自分のところを元気にしようとする皆さんそれぞれの想いと努力をされているというのを肌身で感じたところです。ちょっと長くなりましたけれども、そういう事も踏まえて全道各地で、この自分の故郷を元気にしようという活動が展開されていますよという事で、私の挨拶に代えたいと思います。

それでは今日の第8回目の地域協議会よろしくお願い致します。

### 3. 情報交流（リラックス タイム）

- ・ J A北いしかり厚田支所厚田店店舗取り扱い状況（JA北いしかり 販売購買課 田中課長補佐より口頭説明）

### 4. 報告事項

- ・ 地域創生道の駅モデル企画提案書の提出について（厚田支所 地域振興課 相原主幹から口頭説明）

### 5. 協議事項

#### ・ 地域振興事業の提案について（資料①～⑥）

佐藤会長： 今日協議事項は、主に地域振興事業の提案についてであります。全部で六つございまして、一点目については相原主幹の方から説明をお願い致します。

#### 資料① 「厚田区地域協議会活動報告冊子作成事業」

相原主幹： それでは資料①をご覧いただきたいと思います。9月26日に開催されました第6回地域協議会の中でも議題に上がった、地域協議会のこれまでの活動を取りまとめた冊子についての予算要求となります。

地域自治区が今回5年延長されるという事もある訳ですけれども、元々、地域協議会は10年という話で進んでおり、まずこの10年を節目としこれまでの歩みというか活動、まとめられた提言、未来へと示したい将来像とかというところを一つの冊子にして全戸配布したいと思っております。重要なのは今まで話し合ってきた事を書面に残すという事もそうだと思うのですが、やはり大きなところで言えば、これからの厚田区がどうあって欲しいのかというところを重点に皆さんへ全戸配布しご覧いただき、やっぱり自分達で自分達の地区の事を考えると言う事の一助になればという事で、全戸配布したいと考えております。

冊子のイメージとしては先ほども申し上げた通り、これまでの経過とか協働による取り組みという事で市が進めている事、それから厚田区がこれから進める将来像というのはこういうのが望ましいといえますか、そこに向けてどうあるべきかというような事も示したいと思えますし、やはりその為には、昨年来、何度もお話しいただいております住民が自ら関わるとか参加する、自治会や団体、支所も合わせて皆で作るというところをどう展開したらというような内容を作り上げたいと思っております。予算として30ページ程度の冊子で一部カラーも含め、全戸配布分として1,000部、それから予備として200部という事で、合計1,200部という事で、およそ50万円で予算を組んでみました。

説明は以上となります。

佐藤会長： ありがとうございます。今のご説明にありましたように、地域協議会設立から10年の歩みという事で、それは単なる歩みでは無く、今後の姿を示そうという事です。今、ご提案のありましたこの件について質問はありませんか。

小笠原委員： 前回の時にこういう冊子を作るのであれば、浜益の方の地域協議会と絡めてという事を言ったと思いますけれども、その辺りの検討はしていただけたのでしょうか。

相原主幹： 小笠原委員が言われましたとおり、浜益の方ともお話しをしました。本庁サイドとも実はお話しをしております、浜益でも厚田で作るのなら考えても良いなといえますか、一

緒に足並みを揃えた方が良いのではないかという意見もあった訳ですが、浜益の方は5年延長されたという事もあって、もう少し先の5年後の時に作ろうという事でまとまったと聞いております。石狩市としても、各自治区それぞれの足並みが揃うのも大事だけれども、各区の考え方が尊重されるべきであろうという事で、今回は厚田区だけ作るのも問題無いのではないかという事で今、進んでおります。

小笠原委員： はい解りました。

佐藤会長： その他、ご質問ございませんか。

【質問無しの声があり了承される】

資料② 「あつた水彩画展芸術文化振興事業」

佐藤会長： この説明は大黒委員からお願い致します。

大黒委員： 今度で第3回目になる訳ですが、今年2回目が終わり反応も凄く良く、特に石狩市にこの作品を持って来てくれ、向うでもやってくれという事で、中学生や高校生に見せてやってくれという要望が来ており、この反応は凄いなと思います。何で厚田で水彩画展をやっているんだという疑問を感じて、色んな事を考えたのかも知れないですね。そういう刺激を与える事によって、大人の議員も変わってきたように思います。議員の中でも初めは、何だかんだと文句を言っていた訳で、こんなものという感じだったのですが、今回は、認めるとか素晴らしい事だという反対の事を言い出したので、それ位の反応がありましたので、初めにこの辺りをPRしておきます。

今度、28年度に3回目を実施しますので、正念場となり大変なのですが、ここで頑張らなくては駄目だと思案があります。目的については、資料の通りで良いと思いますが、事業の概要も昨年までと同じような事となっており、日程的に公募の部分について若干変わっております。特に評判が良いのは、記念パーティーで厚田の食材を使った手作りによるおもてなしが凄く気に入ったという方が多かったです。

それから展覧会を15日間開催する訳ですが、展示作品を準入选迄として展示数を倍位に増やした訳で、壮大な展覧会が出来たという事で凄く反応がありました。その時期に丁度、7月の末から8月の初めの頃までで子供達も凄く活動的で、それから国道の方にも凄く人が来ますので、派生して展覧会を観に来て資料館を見て行ったり、それから観光案内所に寄ったりという事で色々な派生が凄くあり、効果が出ているなという事で地域の人達がまとまる一つの反応かなと思います。こだわり隊の直売所も、土曜や日曜などは一発で売れたと思うのですが、何か反応があったような感じがします。そういう事も含め提案をしたいのですが、24万8千円の基金活用を提案したいと思います。今後の事業計画についても、ここに①から④まで書いてありますが、絵を描く芸術の森という事で、長期滞在型の厚田で絵を描けるような所を造りたいという将来への展望ですけれども、夢ですけれどもそこまでいってございまして、それから小中学生に受賞された人から絵画教室をやるという事も含めて発展していきたいと思案しますので、是非、認めていただきたいと思案します。

佐藤会長： はいそれでは、今のご説明に対して何かご質問はございませんか。こういう文化事業というのは長く続ける事によって、その地域が認められるといえますか、文化の発信が徐々に

伝わっていく訳で、今回は2回目という事ですが相当反響が大きかったので、これは是非、続けていただきたいという風に思っております。縁の下の力持ちがまだまだたくさんいますので、サポートしてくれる人も多くいますので、是非、続けていきたいと思っておりますけれども、これを認めていただいてもよろしいでしょうか。

【質問無しの声があり了承される】

### 資料③ 「地域で取り組む情報発信事業」

佐藤会長： この説明は厚田こだわり隊の河合隊長より説明をお願い致します。

河合隊長： 厚田こだわり隊隊長の河合です。どうぞよろしくお願いたします。日頃より皆様には、当隊の活動に対してのご理解、ご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(こだわり隊)

私たち「厚田こだわり隊」は、厚田の「土地」「味覚」「らしさ」にこだわった「あつたこだわりのまちづくり」を展開するため、地元特産品の安全性、新鮮さ、おいしさを広める直売事業をはじめ、厚田の魅力をPRする活動、また、地元の食材を活用した新商品の開発などに取り組んでいる団体です。

さて、早速ですが、私から平成27年度に厚田こだわり隊が取り組む地域自治区振興事業について、継続事業が1つと、新規事業が3つの計4つの事業を提案させていただきます。

資料3をご覧ください。1つ目の事業の提案になりますが、平成26年度から取り組んでおります継続事業「地域で取り組む情報発信事業」でございます。この事業は、フェイスブックやブログなど電子媒体を活用して、地元食材、区内のイベント及び地域活動などの情報発信を行うことにより、多くの方々に厚田に来ていただき、観光力の強化と地域経済の向上を目的として行う事業であります。10月末現在の状況ですが、情報発信基地の来客数が『275人』、電子媒体を活用した情報発信については、約10万件が閲覧されており、フェイスブック閲覧数では『54,194件』、ブログ閲覧数は『41,132件』となっており、多くの方々に厚田の旬な情報を見ていただいているところです。

今後も継続して厚田の魅力を存分に発信し、1人でも多くの来客者を呼び込むべく重要な手段として継続して取り組んでいきたいという想いと同時に、より効果的な観光情報の発信や提供方法を模索しながら、計画的に基盤整備を行い、将来的には自立と、持続可能な事業展開を図る仕組みをつくり上げていきたいと考えております。事業費については、情報発信の運営管理、記事作成、投稿などに係わる雇用2名の報酬と、情報発信基地「あつた！」の店舗賃借料を計上しており、事業費の総額が『84万円』の2分の1にあたる『42万円』について、次年度に基金を活用させていただければと思っております。

### 資料④ 「厚田の小さな情報誌増刷事業」

河合隊長： 次に資料④をご覧ください。新規の事業名「厚田の小さな情報誌増刷事業」でございます。

(こだわり隊)

皆様ご覧になったことがあるかと思いますが、今年3月に作成した「食」「観光」「イベント」など地域の魅力を発信する『あつたのちいさな情報誌「あつた！厚田の本」』を増刷し、広く厚田区外、市外において配付することにより、観光人口の増加や地域経済の向上を目的として行う事業であります。

昨年度、国の補助金等を活用して、『日本語版6,000部』・『英語版2,000部』を作成し、厚田区内を中心に飲食店や観光施設等『46箇所』で配付し、たくさんの方々の手に取って

見ていただいているところです。情報誌の残数ですが、『日本語版 140 部』『英語版 200 部』と残りわずかな状況となっております。

この情報誌を増刷し、厚田区外・市外に広く配付することにより、厚田区内への来訪者や観光客の増加が見込まれ、厚田の素晴らしさを感じ、知っていただき、区内を周遊していただくことにより、地域の観光力強化と地域経済の向上・活性化に繋がると考えております。

事業費についてですが、『日本語版 30,000 部』、『英語版 3,000 部』の印刷費用として事業費『1,040 千円』の4分の3にあたる『78 万円』について基金を活用させていただければと思っております。

今後、増刷した情報誌の効果検証を行いながら、改訂版を検討したいと思っております。

#### 資料⑤ 「農産物直売所サポート事業」

河合隊長： 次に資料⑤をご覧ください。新規事業の事業名「農産物直売所サポート事業」です。

(こだわり隊)

地域の人に地元農産物を食べていただきたいという思いから始まった直売所は、3年が経過し、少しずつ地元住民や観光客に親しまれ定着してきており、継続的な直売事業の展開と、また、直売所での飲食の提供など、経営の多角化を進めて、直売事業の経営基盤の強化と安定を図ることを目的として行う事業であります。

これまでの実績ですが、場所や仕入方法、販売金額などすべてを手探りから始め、2年間の試験直売を経て、今年度から本格実施をしております。

売上げについては、平成 24 年度『およそ 49 万円』、平成 25 年度『およそ 150 万円』、今年度は、『2,107,766 円』と右肩上がりに売上げを延ばしており、今年度については、売上げ目標とした 200 万円を達成しております。

また、継続して実施することにより、農業者から活動の意義など理解も得ることができ、参加農業者が、平成 24 年度では、『7 人』でしたが、平成 25 年度『13 人』、今年度は『26 人』とたくさんの農業者の方にご協力をいただくことができ、地域の直売所として着実に前進しているものと認識しております。

今後も継続的な直売事業を展開することで、更なる地元住民や観光客に親んでもらい、強いては地域農業の活性化・地産地商の推進を図る一方で、直売所に上下水道を整備し、食品衛生許可を得て、飲食物の提供販売を行い、経営の多角化による経営基盤の強化・安定を図り、直売所を情報発信拠点の一つとし、観光力の強化と地域経済の向上・活性化に役立てようと考えております。

事業費についてですが、仮設テントや野菜貯蔵庫、ストッカーの購入、また、食品衛生の許可を得るための上下水道整備として、事業費『1,484 千円』の4分の3にあたる『1,113 千円』について基金を活用させていただければと思っております。

地域に愛され、親しまれる直売事業を目指し、参加農業者を増やすことにより、安定的な供給体制を確立し、また、厚田漁港朝市・厚田海浜プール・厚田キャンプ場等での移動販売や、インターネットによる販売を検討し、更なる経営の多角化を進め、直売事業の拡大・安定を図っていききたいと思っております。

#### 資料⑥ 「厚田ご当地グルメ開発プロジェクト事業」

河合隊長： 最後になりますが、資料⑥をご覧ください。事業名は、「厚田ご当地グルメ開発プロジェクト事業」でございます。

(こだわり隊)

全国各地で食と観光による交流人口拡大の手段として、ご当地グルメが注目されており、

皆様もTVのニュース等でB1グランプリの盛り上がりを目にされている方もいらっしゃると思いますが、地域振興という視線において、ご当地グルメを活用した手法は、今後益々注目が注がれるものと予想しております。

そこで厚田区においても、当隊でイベントに出店してPR活動をしておりますノースベストファームで生産されている地域ブランド豚「望来豚」を活用したご当地グルメの開発に取り組み、食による観光力の強化と地域活性化を目的に行う事業であります。

当隊では、望来豚を使用した特製豚丼を『望来丼』と名付けて、厚田の主要農産物であるお米を使用し、いろいろなイベントに足を運び望来豚と厚田産米のPR活動を行っております。今年は、石狩湾新港で行われたライジング サン ロックフェスティバルや大通り公園での札幌オータムフェストなどに出店し、道内だけでなく全国のたくさんの方々に『望来丼』を味わっていただきました。

望来豚は、大丸デパート札幌店で売られていることは皆様ご存知かと思いますが、既にブランド豚として確立されております。そのブランド豚を活用したご当地グルメの開発を行うために、専門家を招致し、製造方法・販売場所・販売販促についてアドバイスを受け、地元で親しまれる厚田のご当地グルメの開発に取り組みたいと考えております

事業費についてですが、『会議開催費 10,000 円』、『専門家招聘等費 322,000 円』、『調査費 200,000 円』、『試作品開発費 250,000 円』、『事務費 20,000 円』を計上しており、事業費の総額『802,000 円』の4分の3にあたる『601,000 円』について基金を活用させていただければと思っております。

厚田のご当地グルメとして、地域の方々に食べていただき、地域で食べられる飲食店を育て、地域一体となった事業展開ができればと思っております。

以上、私から4つの事業について、ご提案させていただきました。

ご審議の程よろしく申し上げます。

佐藤会長： はいありがとうございます。今の提案をしながら、いよいよ本格的にビジネスとして始まりそうな気配がして参りますという提案でありました。

それではまず、資料③から⑥までございますので、これを一括でご質問を受けたいと思いますので、質問をする場合には資料③とかとその資料番号を言ってからご質問いただければと思いますし、ご質問が無ければご意見でも結構です。

小笠原委員： 中身について反対をするものではありませんが、解らない部分がありまして、補助率という部分で1/2のものがあったり、3/4のものがあったりという部分が知りたいです。

佐藤会長： その辺の説明をお願いします。

高田課長： 地域づくり基金の要項の中に定めがありまして、一年目は3/4、二年目以降は1/2という形で3年間補助しますよという事が要項で定められております。それで新規の部分は3/4で、二年目以降のものは1/2というような形になっております。

佐藤会長： それでアクアルールは1/2という事ですね。よろしいでしょうか。

小笠原委員： はい。それでは資料④「厚田の小さな情報誌増刷事業」について質問ですが、自己負担とかを見るとそれなりにあると思うのですが、これをこだわり隊の収益に中から出すのか

なと思うと結構大変なのかなと思ひまして、そうやって自己負担額の全て数字を見ていくと結構な金額になる訳で、大変なのかなと思う訳です。

佐藤会長： 私もその資源は大丈夫ですかと質問をするところだった訳ですけども。

河合隊長： 金額的にも大体、25、26万が自己負担という事で、こだわり隊もそんなに収益がある訳ではないので、実際にこの金額全てを払うとなったら大変ですが、その分を今、既に掲載されているお店とかも何店舗かある訳ですけども、そういった所に掲載に関するお願いといひますか、広告費としての協力をしていただければありがたいかなと思ひております。あとは地元で会社を経営されている企業への寄付のお願いであつたり、そういった部分で、上手く進めれば良いのかなと思ひております。

佐藤会長： 特にこのそれぞれのお店を宣伝してもらっているような物なので、家でも今年200部位が出たかなと思ひますし、英語版についてもほとんど出てしまいました。英語版は特に、戸田墓園に来る外国の方が何組か来まして、最初は日本語版で見ていたので解るのかなと思ひていた訳ですが、解っていなかったようで英語版が非常に喜ばれまして、こういう事例がありました。ただで持っていただく訳ですから、店としてはやっぱりそれだけのものを支払うのは当たり前なので、是非、載せるお店からそういう広告料をいただきますと、少しは自己負担金も楽になるかなと思ひておりますので、是非、それはなさっていただきたいなと思ひております。

その他、何かご質問はございませんか。

ございませんようなので、一括で資料③から⑥迄の厚田こだわり隊の地域自治区振興予算をお認めいただければと思ひます。よろしいでしょうか。

【はいの声があり了承される】

佐藤会長： という事で、こだわり隊はビジネスの方で成功させていただきたいという風に思ひますし、来年で5年目に入ると思ひますが、是非、複合施設の事もありますので、よろしくお願ひしたいという風に思ひます。

以上で今年度の地域振興事業の予算を皆さんにお認めいただきましたので、協議事項は終らせていただきます。

## 6. その他

### 次回会議等の日程について

平成26年12月17日(水) 18:30 ~ 望来コミセン みなくる

## 7. 閉会

平成26年12月17日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会  
会長 佐藤 勝彦